

2020年1月31日（金）

# 未来への扉

高等特別支援学校支援部 128号



## 器用さと危険予知

NHKの朝の連続テレビ小説を見ている方も多いのではないのでしょうか？今放送している「スカーレット」は、陶芸の里である信楽を舞台に女性陶芸家の波乱万丈な人生を描いています。

生徒達にも観せてあげたいなあ。陶芸の作業所のセットには、手ロクロやかきべら、たたら板やなめし皮など授業で使った生徒達になじみがあるものがたくさん出てきます。本校の授業では、1年生に陶工の授業は必須で週2時間、2、3年生なると選択授業として週4時間ずつあります。登場人物が土をあら練り、菊練りする場面は、「腕の力だけでなく、全身の力で練るんや。」と言われていました。基本を習う学校も陶芸家の方も同じなんだなあと思いながら観ていました。

本校の作業学習は、陶工でスカーレットの主人公のような陶芸家のプロを目指したり、木工で家具作りなど木工職人を目指しているわけではありません。作業内容そのものを学ぶことが目的ではないのです。では、何のために行っているのでしょうか。

作業学習を通して体力や根気、報告連絡等のスキル、安全、他者との連携を学習するのですが、今回は“安全”についてお話させていただきます。

陶工の作業をちょっと紹介します。まず土を練って中の空気を追い出したあと、

- ① 成形（形づくり） → ②けずり → ③素焼き
- ④磨き（紙やすり） → ⑤釉薬 → ⑥本焼き

の手順を追って仕上げてきます。生徒達はこのうちの、①②④の作業を主に行います。①②の作業は少々失敗しても、まだ土に水分が

ある軟らかい状態なので直すことができます。しかし、④は植木鉢をイメージして下さい。パリンと割れたらなかなか直せません。ですから、割らないように注意して紙やすりで磨いていきます。

今、われわれの生活はほぼ既製品のもが使われていて、乱暴な取り扱いをしても壊れることはまずありません。

しかし、作業学習で使用するものはそういうわけにはいかず、きゃしゃなもの、薄いもの、細いものをそっと扱うという経験を積んでいきます。

“その物に合った力加減”、これをだいたいの感覚で分かる生徒もいれば、④の作業の時、何個も割ってしまっても、どう気を付けたらいいか分かりにくい生徒もいました。力をある程度込めないと紙

やすりで磨けませんし、力みすぎると割ってしまいます。この丁度いい力加減を身に付けることが、器用さを伸ばしていきます。

「ここは薄いから割れやすいかも？気を付けよう。」

こういった見方は、その後働くための危険予知の力にもつながっていきます。

「ここは危ないかも？気を付けよう。」

そう考えて下の図を見て下さい。作業学習の木工の授業からプリントをお借りしてきました。工場での危険個所を描いたものです。

見たことがある～、という生徒も多いと思います。もう一度危険なところを探してみてください。15か所見つけられたら合格ですよ。保護者の方も一緒に探して下さいね。

